

男女が共に「自分らしく」

女性の役割、男性の役割にとらわれていませんか？

私たちの意識や社会の慣習には、「女はこうあるべき」「男はこうあるべき」という固定的な考えが根強く残っています。たとえば、「家事や育児・介護は女性の仕事」「一家の大黒柱として働くのは男性」とする性別による役割分担意識や、「女はつねにひかえ目に」「男は弱音をはいてはいけない」といった「女らしさ・男らしさ」に対する思い込みなどです。

けれども、こうした固定的な男女の役割は、社会的・文化的につくられたもので、私たちは成長の過程で身につけていくため、それを当たり前の役割として受け止めてしまいがちです。でも、そのために自分らしく生きられないとしたら、とても残念なことですね。

そんな窮屈な考え方にとらわれず、女性も男性も、自分らしく個性を發揮できたり、ともに家庭や地域にかかわれる社会にしていきたいませんか。一人ひとりの意識が変われば社会も変わるはず。性別にかかわらず、誰もが自分らしく生きられるまちづくりに向けて、あなたのできることから始めてみましょう。

◆一人ひとりの個性を尊重しよう

知らず知らずのうちに「女(男)の子だから」と分けて考えていませんか。そうではなく、家庭内のしつけや教育、将来の進路を決める際などにおいても、男女の分け隔てなく、個性を尊重しましょう。

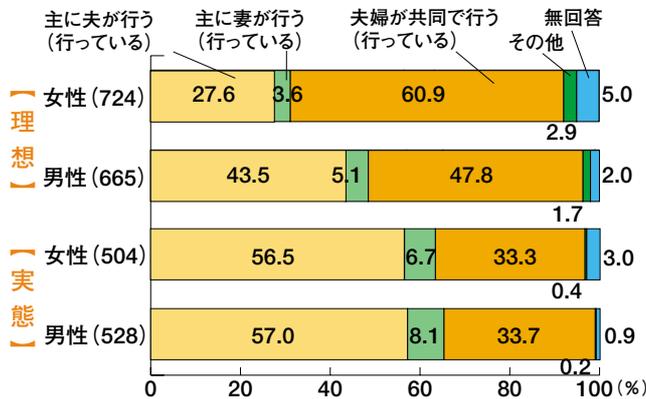


◆家事はお父さんも手伝って

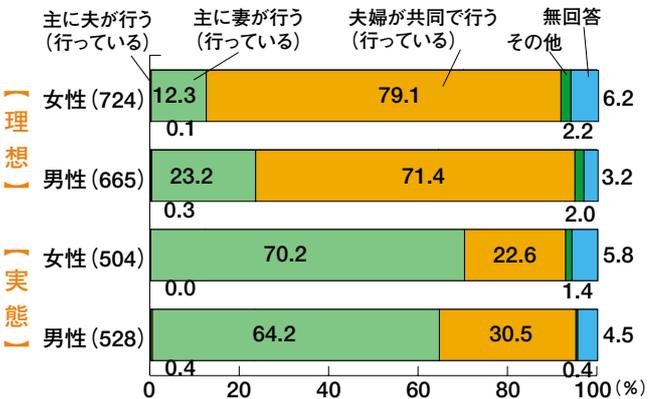
家事を「女性の仕事」と決めつけていませんか。家事などの家庭生活は、家族みんなで力を合わせて行いましょう。

データ① 夫婦の役割分担—理想と現実—

【家計を支える】



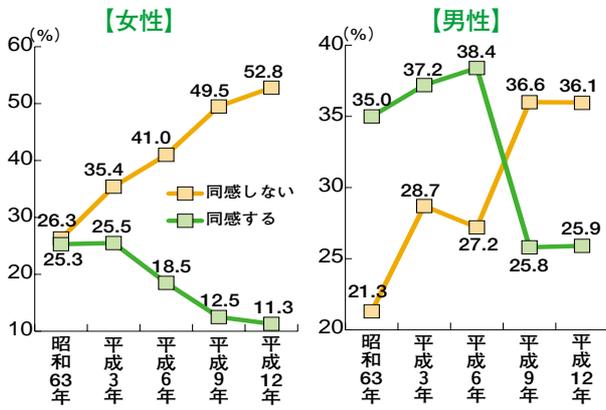
【家事や子育て、介護を行う】



家庭での夫婦の役割分担について、男女とも理想では「家計を支える」「家事や子育て、介護を行う」を夫婦共同で行うことを望む人が多くなっています。しかし、現実には主に「家計を支える」のは夫、「家事や子育て、介護を行う」のは妻となっています。

平成12年度男女共同参画に関する意識・実態調査(埼玉県)から

データ② 「男は仕事、女は家庭」という考え方



男女とも「男は仕事、女は家庭」という固定的な役割分担の考え方に「同感しない」人のほうが多くなっています。とくに女性は年々増え、平成12年の調査では半数以上の人「同感しない」としています。男性は、平成9年以降、「同感しない」人が増えてきました。



◆地域での自分の居場所を見つけよう

もし、仕事に生きるだけがあなたの人生だとしたら、長い人生を心豊かに過ごすことはできません。女性と共に、男性も地域の様々な催しに参加したり、あるいは主催したりして、仲間づくりの輪を広げていきましょう。

◆女性も積極的にリーダーを引き受けよう

いま、主に実際の地域活動を担っているのは女性たちです。でも、いざ、活動のリーダーとなると、男性が多いのはどうしてでしょう。「代表は男性」という慣習にとらわれたり、「責任のあるポストは自信がない」などと尻込みしないで、女性も積極的にリーダーを引き受け活躍してみませんか。



家庭で、地域で、私たちにできることから始めよう。
生きられるまちづくりに向けて



◆地域活動も男女がともに支えあって

誰もが住みよいまちにしていくためには、地域社会の問題についても、男女が共に参加し、解決していくことが大切です。そのため、PTAや自治会などの活動を男性が参加しやすい日程にするなどの工夫をしてみましょう。